2025　　令和７年 12 月発行

NPO法人 富山の名水を守る会

機関紙　第 40 号

―20 周年記念号―

平成９年にスタートした自遊塾「富山の名水探訪」の修了生が集まり、**平成１７年１２月７日**に**「ＮＰＯ法人　富山の名水を守る会」**を創立して 20 年を迎えました。今回は、第 40 号「20 周年記念号」をお届けします。

名水に魅かれて集った会員 45 名の船出から、一時は 80 名を超えた時期もありましたが、コロナ以降高齢化が進み、現在 34 名１法人です。名水探訪は、昨年より一般参加者も加わり、後半の事業を無事終えることが出来ました。

平成 18 年２月４日 **NPO 法人設立**当時の仲間たち
懐かしい思い出の記念写真

「富山の名水を守る会」20 周年に寄せて　　理事長　青木　正樹

富山の名水を守る会としてＮＰＯ法人での活動を開始して 20 年が経過しました。

岡岸喜義会長が県民カレッジ自遊塾で「名水探訪」の講座を開始した時、私は一期生として受講していましたが、当時はこのような法人が設立されるとは考えてもいなかったものです。ただ講座も回数を重ね修了生のＯＢ会として「おかめ会」が作られ、交流の場となっていました。この時点で私自身は浜松へ転勤となり、県民カレッジ・おかめ会とも 10 年弱に渡り距離を置くことになりました。

離れている間に、岡岸理事長・今は亡くなられました堀康廣副理事長を含め周りの人達の尽力で、平成 17 年 12 月 7 日に「ＮＰＯ法人」として設立する運びとなったようです。経緯については離れていたため良くは知らないのですが、ボランティア活動をしていきたいという意向があったそうです。

浜松から帰りＮＰＯの会に再入会しましたが、県民カレッジの講座と連携していたため、毎年新しい方が入会してこられることもあり、会の活動も活発であったことを覚えています。その中で理事にさせていただき役員としての活動をするようになりました。

ただ月日の経つのは早いもので 20 年の流れの中で会員の高齢化が進み、活動にも制約が出てくる様になってきています。また自遊塾講座も取りやめとなったことで、今後の問題として若い年代の方の入会勧誘・一般の方のツアー参加促進・講座にかわる講習会の実施を含めて検討をしていきたいと考えています。会の今後の発展の為にさらなるご協力をお願いいたします。

創立 20 周年の思い出　　会長　岡岸　喜義

平成９年から始めた自遊塾、塾生と立ち上げた「NPO 法人　富山の名水を守る会」が 20 年を迎えた。発足当初はマイカーの相乗りで行っていた名水探訪（県外へも遠征）。無事故でよくこれたと感心している。

平成 16 年、初めて観光バスを利用したのが新潟方面の名水探訪である。その時弥彦神社を参拝してホテルに着いて、宴会を始めた直後、中越地震に遭遇した。バスにしてよかったとつくづく思った。以後バスを利用している。

平成 18 年、某お寺参道入口に湧き出ている井戸水を試飲してみるとまずく感じ水質検査の必要ありと判断し、富山県薬剤師会の水質検査を実施。その結果、硬度が高く臭気のため飲用不可の水であることを発見。その後、飲用しない措置をとるよう働きかけた。（富山新聞掲載）その様子をフジテレビで全国放映（安藤裕子のゆうどきタイム）された。

＜**受賞歴**＞　①あいおいニッセイ同和損保による寄付金（H22.11）　②とやま環境賞（富山・水・文化の財団）（H23.3）
③第１回富山県エイジレス社会活動推進協議会顕彰（H24.10）　④生き生きシニア活動顕彰（日本生命財団）（H28.9）
⑤ボランテイア活動推進富山県民会議会長賞（H28.10）　⑥富山県生涯学習団体協議会会長表彰（H30.10）
⑦富山県教育功労者等表彰（優良社会教育団体）（R1.11）

様々な賞、会員の全力で頂いたこれらの賞は、本当に忘れられないものがある。２０年間の重みを彷彿とさせてくれる。これからの展望は、健康に気をつけて地道に活動したい。無理をしないで会員が楽しいと思うものに進んで行きたい。